

報告

ホノルルマラソンに参加して ——ホノルルマラソン挑戦——



宇野 博

ランニング愛好者にとって、ホノルルマラソンは生涯に一度は走ってみたい、走っておかなければならない大会だという。朝日に輝くダイヤモンドヘッドは、筆舌に尽くしがたいものがあり、あの感動・充実感は何度味わっても素晴らしいものらしい。

公開講座「ホノルルマラソンを目指そう!!」は、昨年から私の担任の藤松先生が担当し、地域住民への還元事業として開催しており、社会人学生の私（61歳）も本学在学中には、若い仲間とともに参加したいとは思っていた。

ところが、昨年6月頃だったか、ある先生から、「ホノルルマラソン走らない？ 私も今から練習をして走るから」との誘いを受けて、急きょ公開講座参加となった。

2年目となるこの講座には、36人もの受講者がおり、6ヶ月にわたり、ランニング関連講義・実技を、本学が誇る先生方の指導で実施されることになった。残念ながら私はほとんど参加することは出来なかったが、本番だけは何としても参加しなければと、大好きな授業を17コマも欠席し、ツアーに参加することとなった。

今回のホノルルマラソンツアーの参加者は、受講者の家族、友人も含め、総勢21名。そのうちマラソン挑戦者は、昨年のツアーアテンド業務で感激し、今回は仕事を忘れ(?)出走した某旅行社の添乗者も含め14名であった。

マラソンランナーの参加動機・目的はさまざまである。ホノルルでの行動を共にした一人、自称・松山千春氏は「マラソンを走っている自分」の初夢を見て、一念発起でこの講座に参加。一年足らずの準備で見事、夢を現実のものとした。

また、元市議会議員で、トークにかけては天下第一品、常に仲間を和ませてくれたF氏は、15

年前に51歳で記録した4時間7分を更新するため参加。中間点過ぎまでは自己新達成のペースであったが、レース前3日間のビールの飲みすぎがこたえ、後半故障が発生したのは残念であった。

行動をとともにした、もう一人のF氏は、志賀町在住で、本学を自分たちが誘致した(志賀町は本学開校にあたり多額の補助金を出している)大学として大変親しみを持ってくださいている方で、30数年前までは実業団選手として活躍され、今回の参加者の中で実績No.1であった。しかし、講座での30年ぶりの練習に気合が入りすぎ、故障を抱えてのマラソン再挑戦となった。

参加された方の中には、2年にわたり本講座を受講し、マラソン初挑戦という超真面目な方や、お母さんの走りが心配と言いながら、ちゃっかりと自分のホノルルマラソンを満喫したお嬢さんもいた。また、奥様とお嬢さんのホノルルバカンスのために無理やりマラソンを走らされたお父さん、還暦目前ながら一人で果敢に初挑戦された夫人、お兄さんの伴走のために走らされた弟君、女性2人でのホノルル観光を兼ねてのマラソン挑戦と、それぞれ思い思いの挑戦であったが、ホノルルマラソンならではのフレンドリーな雰囲気の中、全員が完走という快挙を成し遂げることが出来た。

完走後の参加者からは、講座での「300mダッシュは厳しかった」、「筋トレが如何にマラソンに大事かがわかった」等の声が多く聞かれ、地域貢献としての本講座が、大きな役割を果たしていることを実感した。最後に、フルマラソンは2度目で、ホノルルマラソンに初挑戦した私のタイムは、目標の4時間12分を切る4時間8分36秒でした。